

NSP 通信

創刊号

2011.10月

株式会社
エヌ・エス・ピー<http://www.kknsp.jp>株式会社 エヌ・エス・ピー
代表取締役 鈴木 欣也

皆様には平素より大変お世話になっております。

「NSP通信」の創刊にあたりご挨拶申し上げます。

私共の会社は住宅の工業化が進む中、人口5万人の町で「基礎の精度を高めた」とのお言葉を頂いた事から始まりました。自社で開発設計した型枠を軸にユーザーの方々と現場での実験・検証を重ね、施工性能と作業性・経済性を兼ね備えた製品としてNSP鋼製型枠の基が完成いたしました。その後、住宅用基礎資材を企画販売する会社として1972年2月に株式会社エヌ・エス・ピーは設立されました。

創業時の想いを胸に、今後とも業界の未来を見つめ、お客様の声に耳を澄まし、現場に根ざした開発を行って参りたいと存じます。

私共の会社も皆様のおかげで、来年で会社設立40年を向かえることとなります。「未来をみつめ、考え、創造する」ことを信念に社業に邁進して参ります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



「NSP通信」を創刊するにあたり、まずは本社の所在地である「岐阜県中津川市」をご紹介します。

本州のちょうど真ん中に位置する岐阜県の南東部の中核都市。岐阜市からは遠く、北と東は長野県に隣接していますが、経済・交通および文化面では愛知県の影響が大きい町です。

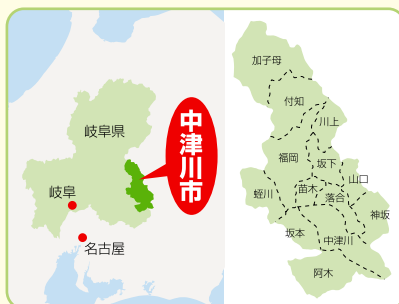
目前には、日本百名山の恵那山と木曾川水系の清流に恵まれ、江戸時代には中山道 木曾路への玄関口の宿場として栄え、町に残る史跡や古い家屋が往時を偲んでいます。

また、中津川は古くから街道が交差する交通の要衝で、古道 東山道や飛騨へ通じる飛騨街道が伸びています。街道を旅する

人たちが交わることで、中津川は情報の拠点となり「地歌舞伎」や「文楽」などの文化が発展してきました。

今日に於いては、先頃報道されました「リニア中央新幹線」の駅ができるニュースをご記憶の方もいらっしゃるかと思います。

平成の大合併では、唯一長野県山口村との越県合併も行なわれ、現在の人口は約8万3千人になりました。



観光

中山道宿場町の面影を今に残す「馬籠宿(まごめじゅく)」です。

岐阜県と長野県の県界、岐阜県側に位置し、ここから北上して馬籠峠を超えると、長野県側には「妻籠宿(つまごじゅく)」があり、この宿場町をつなぐ道は「美しい日本の歩きたくなるみち500選」にも選出されるなど、人気のハイキングコース

約3時間ほどで歩くことができます。

き、道の両側にお店が立ち並ぶ風景は往時の雰囲気を感じ出し、手入れよく保存された心地よい空間です。



(馬籠宿)

名物

中津川市では、和菓子創りが盛んです。その理由は、水がおいしいことと、近くにある恵那市山岡町が、細寒天の生産地だったことがあげられるのではないのでしょうか。

その中でも代表的なのが「栗きんとん」です。もし「栗きんとん」を知っている方は、きつと中津川の名前もご存知でしょう。

蒸した栗を裏漉しし、砂糖を合わせてじっくり炊き上げ、それを布巾でキュッと絞ってでき

あがり。
中津川は栗きんとんを代表に、栗を使った和菓子の里なのです。

ソウルフード

「五十番 やきそば」

地元に住む方で知らない人はいないと言う程有名なやきそばです。

ニンニクと塩コショウだと思わんですが、かなりシンプルな味付けなのになぜかクセになる味。

普通盛450円、大盛600円、この大盛がすごい量。

大盛だと皿からこぼれそうなので山盛りにされていて、あまり多いときさすがに飽きてくるので、やたら辛いラー油や酢をかけたりしながら食べることもできますよ。

一度お試ししあれ！



エヌ・エス・ピーの歩み 前編（1972年～1992年）

▶1972年

住宅用基礎鋼製型枠の販売を主目的としてエヌ・エス・ピー商事株式会社を設立



この年の出来事

日本およびアジアで初めて開催された冬季オリンピックが札幌で開催

▶1973年

幼児用ユニット式プール（NSPプール）を開発、販売を開始



為替レート・1ドル=308円の固定相場制から、変動相場制に移行

▶1981年

製品の企画・開発、販売へと業務内容の充実に伴い社名を株式会社エヌ・エス・ピーに変更



※このシンボルマークは1992年より採用

神戸港に造られた人工島（ポートアイランド）において神戸ポートアイランド博覧会が開催

▶1986年

木製遊具販売開始「創造」S.L各シリーズ化



男女雇用機会均等法施行

▶1987年

レーザーレベル販売開始



国鉄が分割・民営化されJRグループ7社が発足

▶1989年

木曽絵製品の販売開始



昭和天皇崩御『平成』に改元

▶1992年

パリ・モスクワ・北京マラソンレイドに「地球環境号」で参加（創立20周年記念事業）



日本全国の公立学校で毎月第2土曜日を休業日とする月1回の学校週5日制スタート

エヌ・エス・ピーの歩み 後編（1993年～）

▶1993年

水圧土留の販売開始



この年の出来事

法隆寺（奈良県）、姫路城（兵庫県）、屋久島（鹿児島県）、白神山地（青森県、秋田県）が、日本での初の世界遺産登録

▶1994年

本社社屋を現在地に新築、移転



関西国際空港開港

▶1996年

樹脂ステップを開発し販売開始



携帯電話が爆発的普及

▶1998年

NSPクイック土留を開発し販売・レンタル開始



冬季オリンピックが長野で開催

▶2002年

下水道用塩ビ管配管用「パイプサポート」を開発し販売開始



FIFAワールドカップが日本と韓国で共同開催

▶2005年

住宅用基礎天端調整治具「らくらく天端ビス」・「らくらく調整ドライバー」の販売開始



日本国際博覧会（愛知万博）「愛・地球博」が開幕

▶2002～2010年

2002年 ISO14001 環境の認証取得
2003年 ISO9001 品質の認証取得
2004年 OHSAS18001 安全の認証取得
2010年 ISO27001 情報セキュリティの認証取得



ISO 9001: ISQA 480 (全社)
ISO 14001: ISAE 122 (本社)
ISO 27001: ISA IS 0011 (全社)
OHSAS18001: ISAOH0020 (本社)

ノーベル化学賞に根岸氏、鈴木氏

ここでは、弊社事業に深く関わる、日本における「住宅基礎」及び「下水道の歴史」についてご紹介いたします。

日本の住宅基礎の歴史

縄文時代～古墳時代前半

竪穴式住居や高床式住居では、地面に掘った穴に柱をそのまま立てられていました。「掘立式建物」とも呼ばれ、基礎はありませんでした。



三内丸山遺跡
(青森県)

古墳時代後半～明治

6世紀末以後の寺院・国衙（こくが）の中心的な建物に礎石（そせき）建物が採用されました。礎石は基礎の原点ともいえるもので、地中埋設した木材の腐食を防止するために、礎石の上に柱を載せたり、短い石柱を礎石に載せるような工夫がなされていたようです。



現存する世界最古の木造建築である法隆寺金堂にも礎石が用いられています。

礎石建物は畿内の寺院建築から始まり、地方の古代官衙・城柵に広がり、中世の寺院、戦国時代の城などに取り入れられ、近世に入って上級武士の屋敷に広がり、最後に下級武士・商工業者・農家などに普及していきましました。民家に広く礎石が使われるようになったのは江戸時代以降で、18世紀までは東日本では掘立柱建物が一般的でした。

明治～現代

明治維新後、西洋技術の導入が盛んに行われ、鉄筋コンクリート構造も導入されました。大正時代にあった関東大震災では、日本古来の木造や同じ西洋式の石や煉瓦造りの建物が倒壊したのに対して、鉄筋コンクリート造は耐えたものが多かったため、鉄筋コンクリートの耐震性が注目され、基礎にも使用されるようになりました。

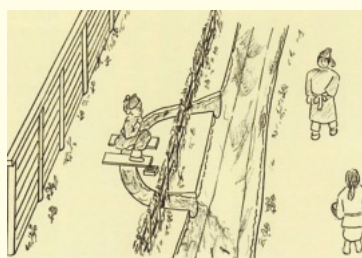


日本の下水道の歴史

奈良時代

藤原京や平城京などの都では、道路と宅地を計画的に配置し、道路の両側には溝が設けられていました。この溝が下水道の役割を果たし、雨水や家々から出る汚水も排除したのではと考えられています。

藤原京弧状溝形水洗式トイレ
「トイレの考古学」（東京美術）



戦国～江戸時代

豊臣秀吉の大阪城築城に伴い、碁盤の目状に道路が整備され、建物の背中合わせのところに下水溝が掘られました。



太閤下水
(大阪市建設局)

そして、この下水溝にはさまざまな40間四方の区画が町割りの基本となっていました。この下水溝は「背割下水」または「太閤下水」と呼ばれています。また、江戸の下水道は開渠であったことから、下水が滞らないよう維持管理は各町々の責任で行われていました。修理は当初幕府の負担で行われていたものの、次第に各町々に委ねられるようになったようです。

明治～昭和時代

明治時代にはいつて人々が東京などの都市に集まるようになると、大雨によって家が水に浸かったり、流れないでたまったままの汚水が原因でコレラなどの伝染病が流行しました。そこで明治17年に東京の近代下水道、神田下水がつくられました。



神田下水
(東京都下水道局)

その後、日本で最初の下水処理場として大正11年に三河島汚水処理場（現在名は三河島水再生センター）ができました。



三河島水再生センター
(東京都下水道局)

以後昭和戦前期までに下水道事業に着手した都市は約50都市でした。

昭和30年代の高度経済成長に伴い、公共用水域の水質汚濁が社会問題となり、昭和45年の公害国会では、下水道法にも水質汚濁防止の目的が加えられました。さらに、下水道普及地区においては、水洗便所にするのが義務付けられ、下水道は処理場を持つこととされました。その後、下水道の整備が積極的に進められています。

編集後記

NSP通信創刊号いかがでしたでしょうか？

私達の商品は現場のお客様の声から生まれ、改良に努めております。本誌が「お客様との架け橋」の一つとなり、新たな発見・発掘が生まれる事を期待しながらこれからも紙面作りをしていきたいと思っております。

なお、次号では鋼製型枠・土留資材誕生の秘話などを掲載予定です。

編集長 井口 和修